

新春セレオ公演

# 八王子芸妓 新春の宴

明治初期から栄えた八王子の花街。  
その伝統文化と芸を受け継ぐ  
芸者衆による華やかでおめでたい新春の舞をお届けします。

日時：2016年1月3日(日)  
①12:00～ ②14:30～  
※各回30分程度



会場：北館2F イベントスペース



「ゆき乃恵」主人 めぐみ

## ■八王子芸妓

八王子は甲州街道筋の宿場として、また絹織物の産地として古くから栄え、地元の織物業者と買い付けに来た商人による接待の場として、八王子花柳界は生まれました。空襲で打撃を受けたものの、戦後の織物業の好景気とともに花柳界も最盛期を迎え、280名の芸妓が在籍していました。その後、繊維業の衰退から花柳界も一時消えかかるも、ここ近年は地元の方々の応援もあり、活気を取り戻しつつあります。各イベントや八王子市の催しなどにも参加し、若手を中心に八王子花柳界の灯りを消さぬよう活動しています。



菜乃佳



ひさ丸



成華



くるみ

## 演目

※演目は変更になる場合がございます。

『初春』 『松づくし』 『梅と松』 『並木駒形』 『お座敷さわぎ』

新春セレオ公演

# 八王子車人形 西川古柳座

八王子車人形の伝統を受け継ぐ西川古柳座による新春公演。  
天下太平、国土安穩、五穀豊穰を祈るお祝いの踊り『三番叟(さんばんそう)』など、  
新春にふさわしいおめでたい演目を上演いたします。

日時：2016年1月3日(日)

①11:00～ ②13:30～ ③15:30～  
※各回30分程度



会場：北館2F イベントスペース

◎ 西川古柳先生による人形解説コーナーもあります。(13:15～)



## ■西川古柳座

江戸末期に考案された「八王子車人形」は、文楽系の三人遣いを「ろくろ車」と呼ばれる車をおさめた箱に腰掛けて操る一人遣いに改良。

右手で人形の右手、左手で人形の左手と首、さらに指で目・口・眉まで動かします。人形が舞台に直接足をつけて演技が出来るため、世界にも類がない独自の躍動感が生まれます。また伝統的な車人形の操法を基礎として、新鮮な工夫を重ね、昭和五十六年には乙女文楽の技法を取り入れた「新車人形」を考案。

技法のみならず、豊富な用具を多数保有し、さらに古柳座独自の用具なども考案して新作の上演も可能にしています。

伝統的な人形芝居を伝承するとともに、西川古柳座は八王子だけにとどまらず、日本各地、さらに諸外国にまで、車人形の技法を通じて、地域文化、日本文化のあり方を将来に示しています。※平成8年には国の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財に選定。

## 演目 その一

に にん さん ばん そう  
『二人三番叟』



寿三番叟は、能の「翁」を下敷きにした天下太平、国土安穩、五穀豊穰を祈るお祝いの踊りで、舞台の幕開きに演じられる。田植えを舞う「揉みの段」と、鈴を持って種まきを舞う「鈴の段」から成り立つ。

さまざまな芸能に登場する三番叟は、人形浄瑠璃の場合「寿式三番叟」がもっとも完成された形の演目で、同じ義太夫の曲のまま「二人三番叟」として歌舞伎でも上演され有名。八王子車人形では、翁・千歳・三番叟のうち、後半の三番叟の舞を中心に「二人三番叟」「三人三番叟」「参宝三番叟」「寿式三番叟」に近い「寿五人三番叟」などを舞う。

※演目は変更になる場合がございます。

## 演目 その二

だん ご う  
景事『団子売り』



桜田治助の清元を義太夫化したもの。あら玉の年の初めを寿ぐ、夫婦の団子売りの純俗物の舞踊。団子売りの杵造(きねぞう)とお臼(おうす)の夫婦が、屋台をかついで町並みを流している。やがて、臼を真ん中に据えて杵を抱え「臼と杵とは夫婦でござる。」と唄い囃しながら、仲良く餅をつく。杵造は、赤手拭いで向こう鉢巻をして「お月様さえ嫁入りをなさる。やっときなさるとこせ…ほんにえ、お若いあの子を産んで…」と身振りも鮮やかに涙唄を踊る。かわってお臼が、手拭いで姉さん被りで現れると「高砂尾上の爺さまと婆さまが、箒を手に持ち熊手を担いで…」と早間で賑やかに、慰(じょう)と姥の振りをコミカルにみせる。夫婦はまた、屋台を担いで次の街へ流してゆくのだった。